

# **UNITE**

**DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM**

OPERATING INSTRUCTIONS

For  
Unite TP  
Unite RP  
Unite RP-T  
Unite TH  
Unite CC-24P

**beyerdynamic**



## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

この度は beyerdynamic Unite システムをお選びいただきありがとうございます。

安全にお使いいただくために以下の内容をご確認いただくようお願いいたします。

Unite システムはさまざまなアプリケーションに対応しており、企業や博物館のグループツアーや無線通訳システムとの多言語会議など最適なデジタル音声伝送を提供します。

Unite システムは、以下の Unite ファミリーで構成されています。

- ・ **Unite RP** ボディパッケレシーバー
- ・ **Unite TP** ボディパケットランスミッター
- ・ **Unite TH** ハンドヘルドトランスミッター
- ・ **Unite CC シリーズ** 充電器
- ・ **Unite CR シリーズ** ラックマウント用充電器
- ・ **Unite CD シリーズ** 卓上充電器
- ・ **Unite AP-4** アクセスポイント

※本書は Unite TP/RP/RP-T/TH/CC-24P の取扱説明書になります。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

1. ご安全にお使いいただくために	7
2. システムインフォメーション	8
DECT	8
動作範囲	8
オートマチックフリケンシー制御	9
3. クイックスタート	10
4. グループID/チャンネル/暗号化	11
グループID	11
・ グループIDの変更方法	12
チャンネル名	13
・ チャンネル名の変更方法	13
暗号化	14
ペアリング方法	15
5. 機能	17
チャンネルサーチ 	17
トークバック機能 	17
デバイスモード(Master/Sub-Master) 	18
NOM - Number of open microphones	18
外部インターフェース 	19
6. 充電	20
・ Unite 充電器	20
・ USB アダプター	20
Unite CC-24P 充電ケース	21
・ Unite CC-24P の操作方法	21
7. Unite トランスミッター、レシーバー	22
Unite TP ボディパケットランスミッター 	22
Unite RP/RP-T ボディパケットレシーバー 	23
Unite TH ハンドヘルドトランスミッター 	24

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

付属品	25
・ ベルトパックデバイス	25
・ ハンドヘルドデバイス	25
ボディパックトランスミッターの装着 	25
・ ネックストラップ	25
・ ベルトクリップ	25
ヘッドフォン/ヘッドセット/インダクションループの接続 	26
マイクの接続 	26
ライン入力 	27
電源のオン/オフ 	27
画面表示	28
・ Unite TP の画面表示	28
・ Unite RP/RP-T の画面表示	28
・ Unite TH の画面表示	29
音量調整 	30
ミュート機能と通話機能 	30
8. メニュー項目	31
[Audio]メニュー 	32
インプットエフェクト 	33
[Talkback]メニュー 	34
[Bluetooth]メニュー 	35
[System]メニュー 	36
9. その他の機能	37

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

ボタンロック 	37
・ ベルトパックデバイス	37
・ ハンドヘルドデバイス	37
オートマチックパワーオフ 	37
10. 仕様	38
Unite RP/RP-T	38
Unite TP	39
Unite TH	40
Unite CC-24P	41

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 1. ご安全にお使いいただくために

- ・お使いになる前にこのユーザーマニュアルを最後までよく読み、正しくお取り扱いください。
- ・ヘッドフォンやヘッドセットをお使いの際は、ボリュームを小さくし着用後に徐々に上げてください。大音量で長時間のご利用は聴力の低下を招くことがあります。
- ・分解や改造は行わないようにしてください。
- ・USB 2.0 / 3.0 に準拠した 5V 電源を使用して USB タイプ C ポート経由でバッテリーパックを充電することができます。消費電力は最大 500mA です。
- ・バッテリーを損傷し寿命を短くする恐れがあるので、バッテリーを完全に放電しないでください。送信機を数ヶ月使用しない場合は、自己放電による性能の低下を防ぐために少なくとも年に 2 回充電する必要があります。
- ・異常（音、煙、臭いや発熱など）に気付いたら使用しないでください。
- ・当機器を水のかかる環境に設置しないようにしてください。
- ・掃除する場合は乾燥した布でのみ行ってください。
- ・火気に近づけないようにしてください。
- ・感電を防止するため、確実にアースに接続してください。
- ・電源ケーブルは必ず付属のものを使用してください。仕様の合わないケーブルを使用すると火災の原因になる場合があります。
- ・ユーザー様にて修理できる商品はありません。万が一の不具合の際は株式会社オーディオブレインズまでご連絡ください。
- ・beyerdynamic、及び株式会社オーディオブレインズは不適切な操作による製品の損傷や、事故、傷害について、一切の責任を負いません。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 2. システムインフォメーション

#### DECT

DECT (Digital Enhanced Cordless Telecommunications) は無線技術を使用した電気通信の国際規格であり、特にデジタルコードレス電話での使用で知られている技術で、Unite システムはこの技術を使用しています。

最新の DECT 規格であるこの伝送プラットフォームは、電波利用の申請をせずに誰でも無料で使用できます。さらに、Unite の DECT システムは優れたセキュリティを提供します。レシーバーは暗号コードを使用してトランスミッターとペアリングします。

DECT は 2.4GHz 帯などを使用する Wi-Fi や Bluetooth などとは異なる周波数を使用するため、十分な干渉耐性があればこれらのネットワークへの干渉は発生しません。

日本では 1893-1906MHz が DECT 周波数帯として使用できます。

#### 動作範囲

Unite システムは非常に長い距離を伝達することができ、見通しの良い空間で最大 300m の伝送が可能です。しかし建物内にはさまざまな影響要因があり、動作範囲は障害物によって制限されます。一般的にこの性能は電波の吸収および反射により制限されます。例えば、鉄筋コンクリートは電波をある程度吸収しますが、金属張りの天井はそれを反射します。

ほかにも各国などで利用可能な周波数帯域に応じて、使用できる DECT 無線接続の数に影響を与えます。例えばヨーロッパでは最大 120 チャンネルが使用可能ですが、米国での最大チャンネルは 60 チャンネルです。しかし接続されるデバイスの総数はこれらよりもはるかに多くなる場合があります。チャンネルを同時に使用される DECT 無線接続の数にのみ関連するためです。実際のシステム制限は、すべての影響要因が一度に発生した場合にのみ予想されます。

例：建物のあるエリアに同時使用できる DECT 電話機が 70 台あり、32 グループの Unite システムがあった場合、送信機は同時にいくつかの壁を通過し、相互に影響する場合があります。壁は鉄筋コンクリートですべての天井は金属製のものです。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

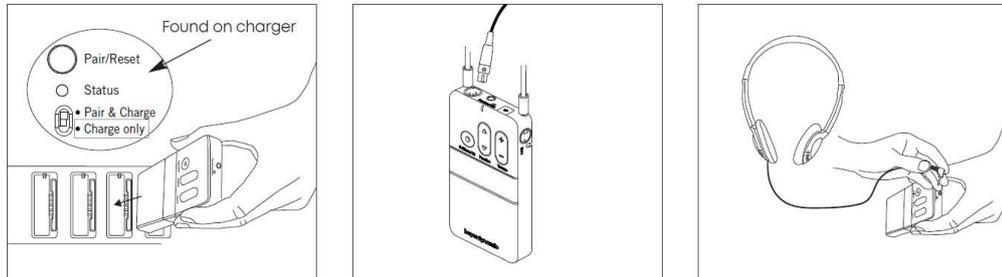
### オートマチックフリケンシー制御

Unite システムのさらなる利点はオートマチックフリケンシー制御です。システム自体が送信を制御し安全な送信を自動的に調整します。使用者は周波数の心配をする必要はありません。これは使用可能な周波数を認識し自動的に調整します。干渉信号は早期に識別されシステムは即座に対応します。使用者の知識がなくとも自動的に周波数を切り替えて音切れを防止します。

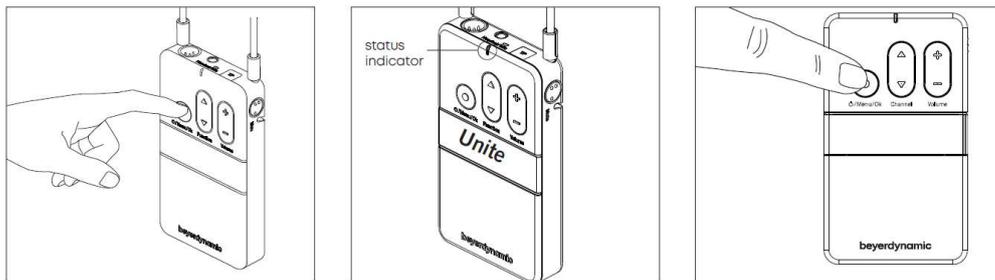
また、システムはすべてのアクティブなワイヤレス接続を識別し、個々のグループが互いに干渉しないように適応します。これは Unite システムが最大 32 のグループまで同時に使用できることを意味し、広い動作範囲と長い動作時間が安定した伝送条件を作り出します。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

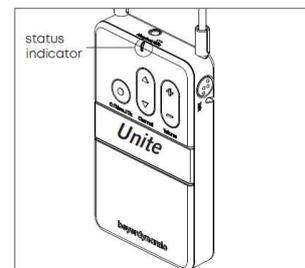
### 3. クイックスタート



1. Unite システムを初めてお使いになる前に、トランスミッターとレシーバーを充電器で充電してください。
2. 充電器のスイッチを[Charge only]の位置に設定します。
3. マイクまたはヘッドセットをトランスミッターに接続します。
4. ヘッドフォンをレシーバーに接続します。



5. 冫/Menu/Ok ボタンを短く押し、Unite トランスミッターの電源を入れます。
6. トランスミッターのステータスインジケータは赤色に点灯し、トランスミッターが適切な周波数を検出して動作準備が完了するとステータスインジケータが緑色に点灯します。
7. ディスプレイにはデフォルトチャンネル名の[Unite]が表示されます。
8. 冫/Menu/Ok ボタンを短く押し、レシーバーの電源を入れます。
9. レシーバーのステータスインジケータは赤色に点灯し、[Connecting]というメッセージが画面に表示され利用可能な電波を検索します。レシーバーがトランスミッターに接続されるとステータスインジケータが緑色に点灯し、デフォルトチャンネル名の[Unite]が表示されます。



## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 4. グループ ID/チャンネル/暗号化

#### グループ ID

Unite システムは同じグループ ID をもった機器同士のみが通信することができ、レシーバーは同じグループ ID の中から任意のチャンネル名のトランスミッターに接続することができます。

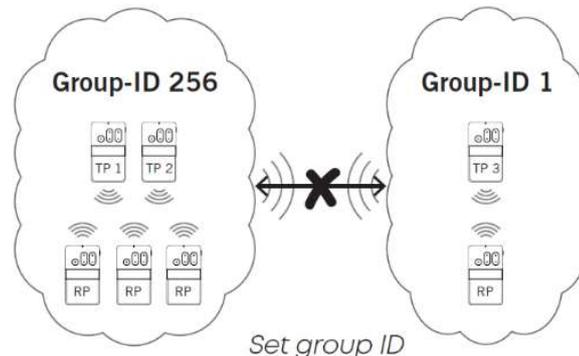
異なるグループ ID を持った Unite システムは互いに通信することができません。

グループ ID とは 1-256 の間に設定し、建物やツアーグループ、または各会議室などで区別されるバーチャルグループを識別するために使用します。

すべての機器は簡単にセットアップができるように、初期設定はグループ ID が 256 に設定されています。グループ ID150 から 256 は特別なグループ ID で固定の暗号化キーを持つためペアリングをする必要なく通信することができます。

トランスミッターはチャンネル名を設定することができます。同じグループ内に複数のトランスミッターがある場合、レシーバーはそれぞれのトランスミッターのチャンネル名を選択することができます。

暗号化を使用する場合は機器をペアリングする必要があります。詳しくは P15 [ペアリング方法]の章をご参照ください。

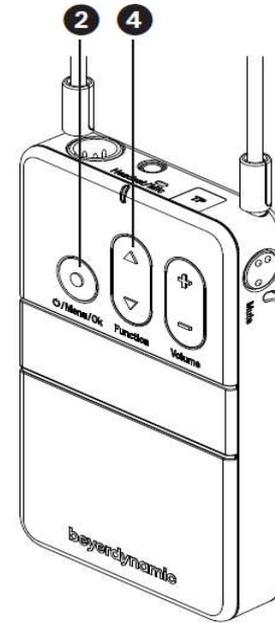


## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### ・ グループ ID の変更方法

グループ ID を設定するには、次の手順に従ってください。

1. トランスミッターの電源を入れます。
2. 冫/Menu/Ok ボタン②を 2 秒間押し続け、メインメニューを表示します。
3. マルチファンクションボタン△/▽④を使用して、メニューから[System]を選択し、冫/Menu/Ok ボタン②を押します。
4. マルチファンクションボタン△/▽④を使用して、サブメニューから[Group ID]を選択し、冫/Menu/Ok ボタン②を押します。
5. マルチファンクションボタン△/▽④を使用して、任意のグループ ID を選択します。
6. 冫/Menu/Ok ボタン②を押して設定を保存します。



## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

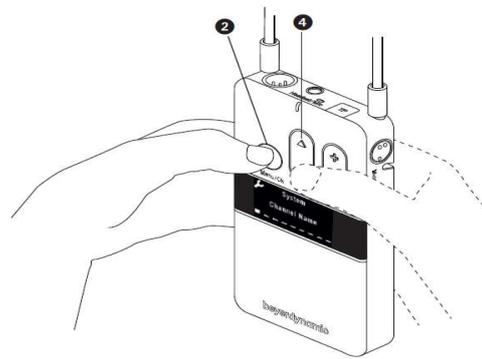
### チャンネル名

Unite システムは同じグループ ID 内で複数のトランスミッターを識別するために、最大 5 文字のチャンネル名を設定する必要があります。

※出荷時はデフォルトチャンネル名“Unite”に設定されています。

#### ・ チャンネル名の変更方法

1. トランスミッターの電源を入れます。
2. ◀/Menu/Ok ボタン②を 2 秒間押し続け、メインメニューを表示します。
3. マルチファンクションボタン△/▽④を使用して、メニューから[System]を選択し、◀/Menu/Ok ボタン②を押します。
4. マルチファンクションボタン△/▽④を使用して、サブメニューから [Channel Name] を選択し、◀/Menu/Ok ボタン②を押します。
5. マルチファンクションボタン△/▽④を使用して文字をスクロールします。目的の文字が表示されたら◀/Menu/Ok ボタン②を押してチャンネル名を入力します。チャンネル名は最大 5 文字まで入力できます。
6. レシーバーで受信を希望するトランスミッターのチャンネル名を入力します。入力方法はトランスミッターと同様です。

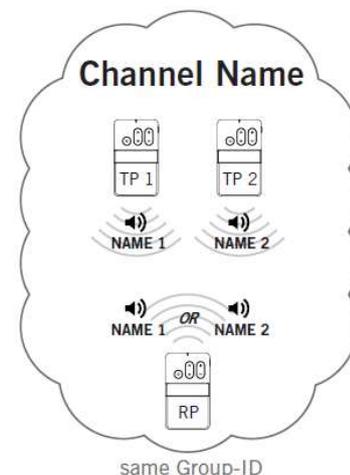


※レシーバー側はスキャンすることでチャンネル名を自動的に送信機から受け取ることが出来ます。そのため手動での入力とは必須ではありません。

7. レシーバーのディスプレイにチャンネル名が表示されたら通信が確立したことを意味します

※右図には、チャンネル名の異なる 2 つのトランスミッターと、両方のチャンネル名を検出し切り替えるレシーバーの例が示されています。

チャンネルの検出および切り替えに数秒かかることがあります。



## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

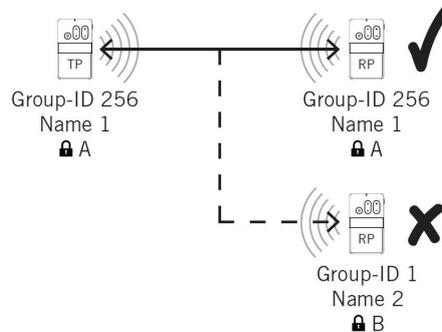
### 暗号化

Unite システムのオーディオデータは AES-256 で常に暗号化されており 音声 を盗聴される心配はありません。暗号化キーは Unite 充電器で自動的に生成され、ペアリング処理と同時にトランスミッターとレシーバーに送信されます。

暗号化キーが無線で送信されないで Unite システムは不正なアクセスからより強固に保護されます。

※グループ ID 150 から 256 は工場出荷時設定の固定暗号化キーが使用されます。

この暗号化キーは変更できません。そのためグループ ID150 から 256 はペアリングを行わずに使用できます。



※Unite システムは、グループ ID、チャンネル名、および暗号化キーの設定が一致する場合にのみ通信できます。

トランスミッターは同じペアリング情報を持たないレシーバーとは通信できませんのでご注意ください。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### ペアリング方法

トランスミッターとレシーバーは、互いに通信できるようにペアリングをする必要があります。ペアリングは充電器を使用して行います。ペアリングに必要な暗号化キーは充電器で自動的に生成され、ペアリング処理中にトランスミッターとレシーバーの両方に送信されます。

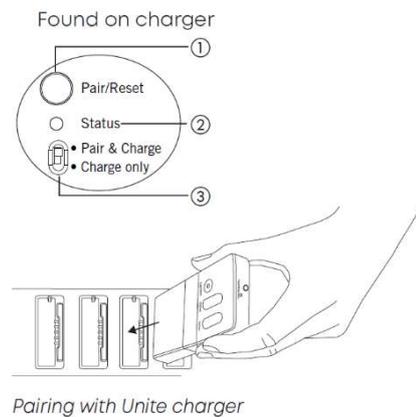
※ペアリングを行うと**グループ ID**も自動的に設定されます。

※グループ ID が 150 から 256 の場合は、工場出荷時設定の固定暗号化キーが使用されます。

この暗号化キーは変更できません。そのためグループ ID150 から 256 の場合は、ペアリングを行わずに使用できます。

充電ユニットを使用してペアリングを行うには以下の手順に従ってください。

1. 充電器のスイッチ③を[Pair & Charges]にします。
2. トランスミッターを使用するグループ ID に設定します。
3. 設定したトランスミッターを充電器に 1 つだけ挿入します。充電器に複数のトランスミッターを挿入すると、ペアリングが開始されず充電器のステータスインジケータにエラーが表示されます。
4. ペアリングをするレシーバーを充電器に挿入します。



※USB ポートを使用してレシーバーを充電器に接続することもできます。トランスミッターから充電器とレシーバーに情報を送信するために、充電器の[Pair/Reset]ボタン①を 2 秒以上押し離します。ペアリングが成功すると、ステータスインジケータが橙色で数秒間点滅します。ペアリング情報が充電器に保存され、ステータスインジケータは黄色で点灯します。

5. 他のレシーバーをペアリングする場合は、ペアリングされていないレシーバーを充電器に挿入し、[Pair/Reset]ボタン①を 2 秒以上押し離します。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

6. トランスミッターとレシーバーの両方の電源を入れ、両方が正常にペア設定されていることを確認します。レシーバーのステータスランプが緑色に点灯し、トランスミッターのチャンネル名が表示されていれば成功です。
7. 充電器に保存されているペアリング情報を削除するには、[Pair/Reset]ボタンを5秒以上押し離します。ステータスインジケータは緑色に点灯します。

LED	状態
消灯	電源オフ
● 緑点灯	ペアリング情報が保存されていない
◎ 橙点滅	ペアリング情報転送中
● 橙点灯	ペアリング情報が保存されている
◎◎ 緑/橙点滅	ローカライズ中
◎ 赤点滅	トランスミッターがない/多すぎる
◎◎ 高速赤点滅	エラー

※ペアリングモード[Pair & Charge]に切り替えると、充電器のステータスインジケータに上記の情報が表示されます。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 5. 機能

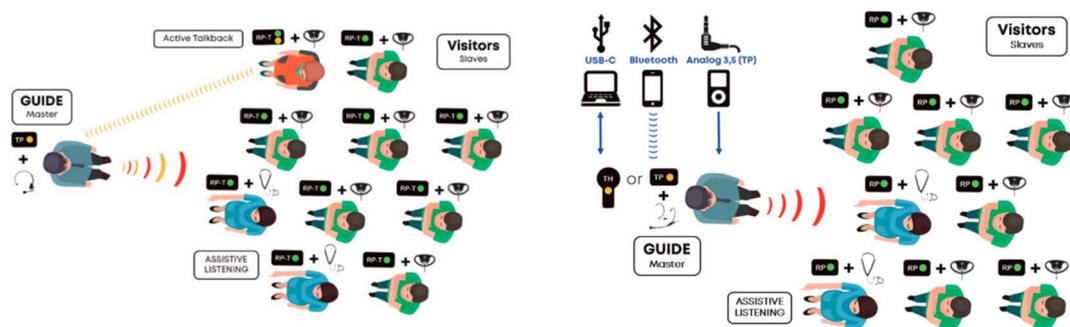
#### チャンネルサーチ

Slave 機器のチャンネルボタン△/▽を押すとチャンネルサーチをすることができます。チャンネルボタン△/▽を押すと、“Scan for Channels?”と表示され、“Yes”を選択するとチャンネルサーチが実行され自動的に使用可能なチャンネルを検索します。終了を押すまでチャンネルサーチは続き、使用可能なチャンネルが見つかった場合は使用可能なチャンネル数を Found:X と表示します。チャンネルボタン△/▽を押すと見つかったチャンネル名が表示されますので、接続したいチャンネル名を選択し 0/Menu/Ok ボタンを押し接続します。

グループ ID、暗号化キーが異なる場合は、発見、接続することはできません。

#### トークバック機能

Unite RP-T のトークバックボタンを押すと設定したマイクが送信状態になります。グループ内のすべてのオーディオ信号の送信は常にグループの Master を介して行われるため、Unite RP-T のトークバック音声はグループへ送信するために最初に Master 機器に送信されます。これは外部信号を含むグループ内すべての信号が同様です。



※Master 機器の Talkback メニュー>Audio Routing>RP Talkback 設定で、グループ内のどの機器(All/Master/Sub-Master)が Unite RP-T のトークバック音声信号を聞くことができるかを設定することができます。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

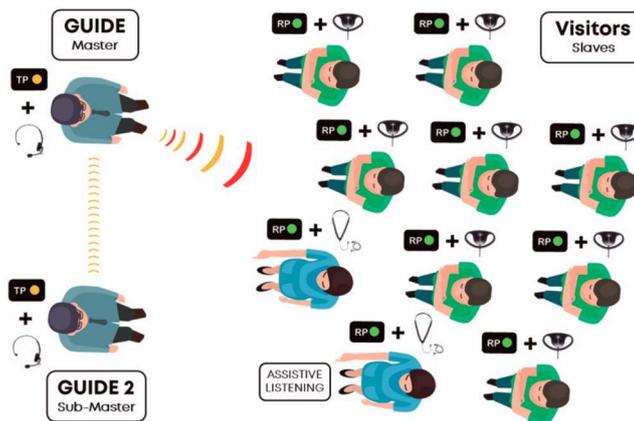
### デバイスモード (Master/Sub-Master) TP/TH

Unite システムではトランスミッターは Master、レシーバーは Slave に分類されます。そのため Unite TP/TH は自動的に Master に分類され、Unite RP/RP-T は Slave に分類されています。

Unite TP/TH はデバイスモードを "Sub-Master" に変更することで Sub-Master として分類され、Sub-Master に設定された Unite TP/TH は Unite RP-T のように機能します。

Sub-Master として設定された Unite TP/TH と Unite RP-T の違いは、Sub-Master 用にトークバックチャンネルが常に開放されている点です。言い換えると Sub-Master に設定された Unite TP/TH は Slave チャンネルを常に占有します。さらに Sub-Master に設定された Unite TP/TH は外部接続されたオーディオソースも Master を介してグループに常に送信することができます。

Sub-Master 機能は同じグループ内に話者が 2 人いる場合などに使用します。



### NOM - Number of open microphones

Unite システムは 1 つのグループ内で同時に最大 3 つのオーディオ信号を使用することができます (NOM = 3)。これはグループの Master 機器に加えて、2 つ Slave 機器 (トークバックチャンネル) を同時に使用することができます。

Unite TP の Talkback メニュー > NOM Talkback 設定では、トークバックチャンネルの数を 1 または 2 に設定することができます。

Sub-Master に設定された Unite TP を使用する場合は、使用できる Slave トークバックチャンネルの数は 1 つに減りますのでご注意ください。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 外部インターフェース **TP**

Unite TP には外部入出力コネクタが複数用意されています。

- ・アナログライン入力

本体に搭載された 3.5mm TRS コネクタはライン入力として使用することができます。

入力されたステレオ信号はモノラル信号に変換されます。

- ・USB 接続

Unite TP は USB Type-C コネクタを搭載しており、PC/Mac に接続すると USB オーディオインターフェイスとして動作し、音声の入出力が行えます。

USB 経由では同時に機器の充電も行われます。

- ・Bluetooth 接続

Bluetooth の接続方式は Bluetooth メニューから Headset モード、及び Phone/PC モードの 2 つから選択することができます。

Headset モードは HFP プロファイルを使用し、ヘッドセットを使用する時に使用します。

Phone/PC モードは A2DP プロファイルを使用し、オーディオを再生する時に使用します。

※Bluetooth 接続をする時はレイテンシーが増えることに注意してください。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 6. 充電

Unite システムを初めて使用する場合、最初に機器を充電する必要があります。充電プロセスおよび充電ステータスは、充電器のステータスインジケータに表示されます。

バッテリーの充電方法は2つあります。

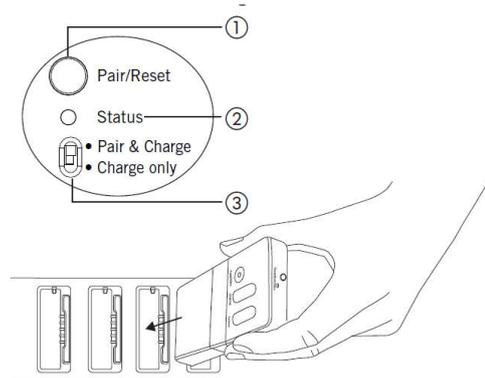
#### ・ Unite 充電器

充電器に電源ケーブルを接続してください。

充電する機器を充電器に挿入すると充電が自動的に開始されます。

※機器は充電器の奥まで確実に差し込んでください。

※Unite 充電器を使用している充電中は機器を使用することはできません。

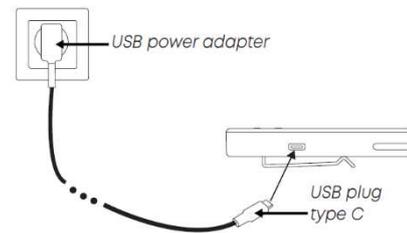


#### ・ USB アダプター

USB 電源アダプターをデバイスの USB ポートに接続します。

USB 電源アダプターのプラグを電源コンセントに接続します。

充電が開始されます。



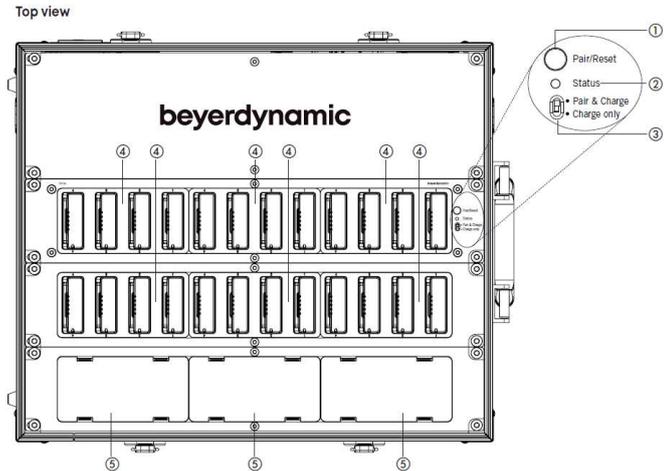
※バッテリーの充電状態は、デバイスの LED インジケータ②で確認することができます。

LED	状態
消灯	電源オフ
◎ 緑点滅	充電中
● 緑点灯	充電完了
◎ 橙点滅	ペアリング情報転送中
◎ 橙点滅10秒	ペアリング情報が保存されている
◎ 赤点滅10秒	トランスミッターが多すぎる
◎◎ 緑/橙点滅	ローカライズ中
◎◎ 高速赤点滅	エラー

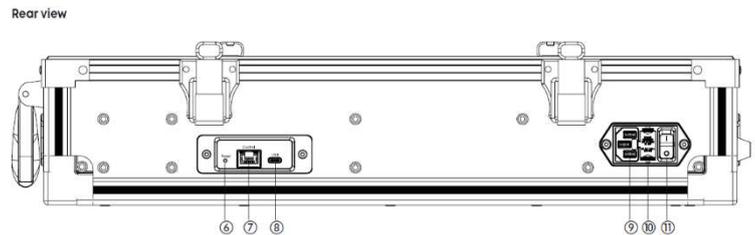
## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### Unite CC-24P 充電ケース

- ① Pari/Reset ボタン  
2 秒押し離すとペアリング処理を開始します。  
5 秒押し離すと保存されたペアリング情報をクリアします。
- ② Status インジケータ  
充電器の状態を表示します。
- ③ ペアリングモード切替スイッチ  
[ペアリング及び充電]と[充電のみ]を切り替えます。
- ④ 4 スロット充電モジュール
- ⑤ 充電モジュールの拡張用スロット



- ⑥ リセットボタン
- ⑦ イーサネットコネクタ
- ⑧ USB コネクタ (Type-C)
- ⑨ 電源コネクタ
- ⑩ ヒューズボックス
- ⑪ 電源スイッチ



#### ・ Unite CC-24P の操作方法

Unite CC-24P 充電ケースは、バッテリーパックの充電とペアリング情報を送信するために使用されます。

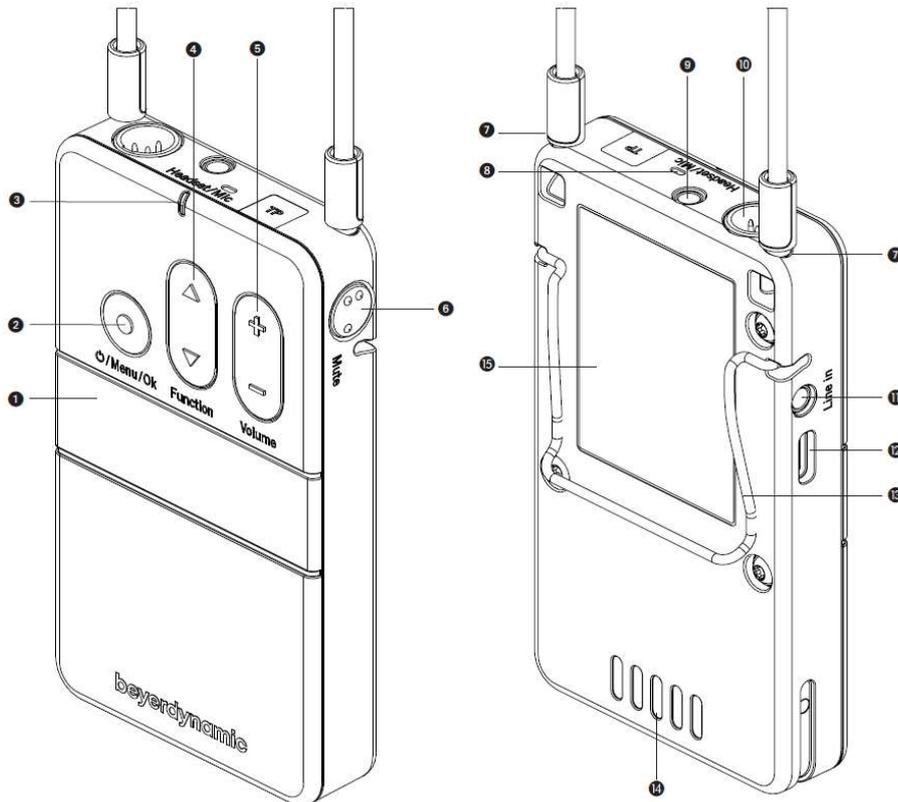
Unite CC-24P はモジュール設計を採用しており、4つの充電コンパートメントを備えた6つの充電モジュールを収容しています。そのため最大24個のデバイスを同時に充電できます。必要のない充電モジュールにはblankパネルを取り付けることもできます。

さらに Unite CC-24P には最大3つの充電モジュール用のオプションスペースがあり、それらを使用すると最大36個の充電コンパートメントが利用できます。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 7. Unite トランスミッター、レシーバー

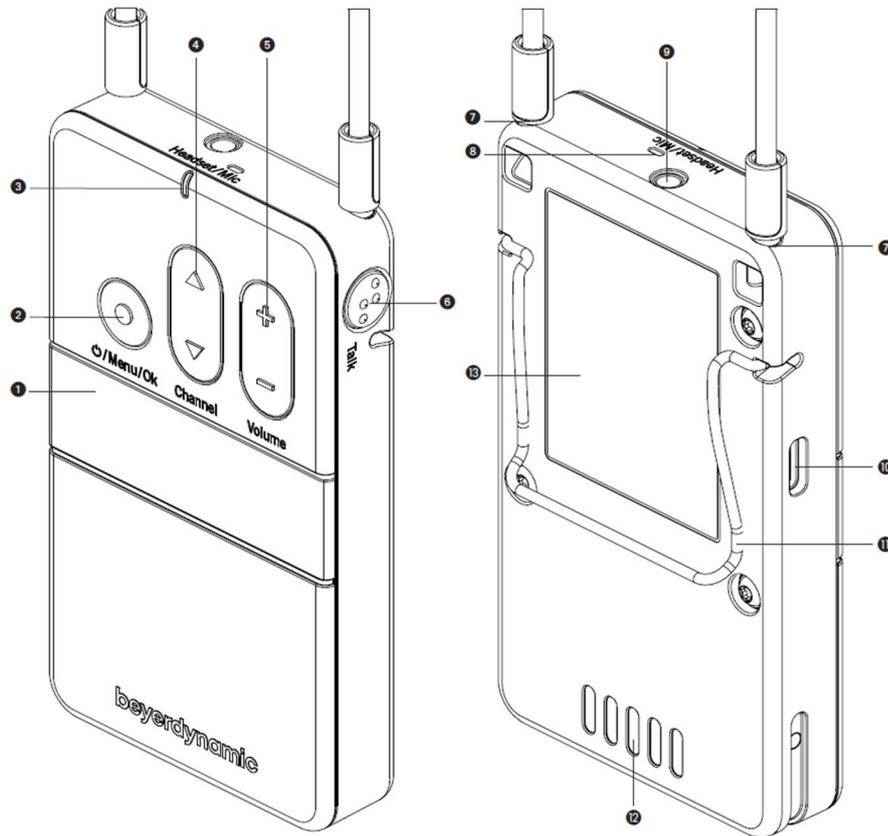
#### Unite TP ボディパケットランスミッター TP



- ① ディスプレイ
- ② 〇/Menu/Ok ボタン  
(電源、メニューボタン)
- ③ ステータスインジケータLED
- ④ マルチファンクションボタン
- ⑤ ボリュームボタン
- ⑥ ミュートボタン
- ⑦ ネックストラップアタッチメント
- ⑧ 内蔵マイク
- ⑨ 3.5mm4Pin コネクター  
(ヘッドフォン/ヘッドセット/  
インダクションループ接続用)
- ⑩ Mini-XLR 4Pin コネクター  
(マイク接続用)
- ⑪ 3.5mmTRS コネクター  
(ライン入力用)
- ⑫ USB Type C ポート
- ⑬ ベルトクリップ
- ⑭ 充電端子
- ⑮ タイププレート

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

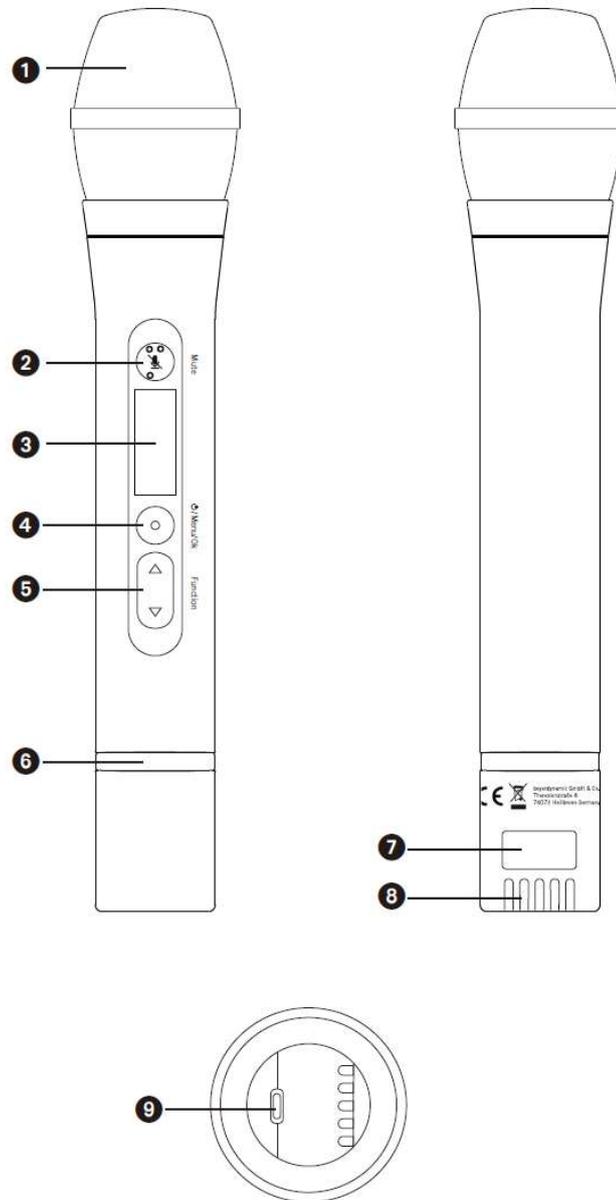
Unite RP/RP-T ボディパッケレシーバー 



- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| ① ディスプレイ                        | ⑧ 内蔵マイク (RP-T のみ)   |
| ② 冫/Menu/Ok ボタン<br>(電源、メニューボタン) | ⑨ 3.5mm4Pin コネクター<br>(ヘッドフォン/ヘッドセット (RP-T<br>のみ)/インダクションループ接続用) |
| ③ ステータスインジケータLED                | ⑩ USB Type C ポート  |
| ④ マルチファンクションボタン                 | ⑪ ベルトクリップ   |
| ⑤ ボリュームボタン                      | ⑫ 充電端子  |
| ⑥ トークバックボタン (RP-T のみ)           | ⑬ タイププレート   |
| ⑦ ネックストラップアタッチメント               |   |

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### Unite TH ハンドヘルドトランスミッター **TH**



- |                                    |                  |
|------------------------------------|------------------|
| ① 着脱式マイクグリル                        | ⑤ マルチファンクションボタン  |
| ② 点字付きミュートボタンおよび<br>ステータスインジケータLED | ⑥ 着脱式カラーリング      |
| ③ ディスプレイ                           | ⑦ タイププレート        |
| ④ 冫/Menu/Ok ボタン<br>(電源、メニューボタン)    | ⑧ 充電端子           |
|                                    | ⑨ USB Type C ポート |

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 付属品

- ・ ベルトパックデバイス **TP** **RP-T** **RP**  
Unite TP/RP/RP-T 本体（ベルトクリップ付属）  
クイックスタートガイド  
ネクストラップ  
ミュートボタン用スペアキャップ（2個）
- ・ ハンドヘルドデバイス **TH**  
Unite TH 本体  
クイックスタートガイド  
交換用カラーリング  
USB Type C ケーブル

### ボディパケットランスミッターの装着 **TP** **RP-T** **RP**

ボディパケットランスミッターの装着方法は2つあります。

- ・ ネクストラップ

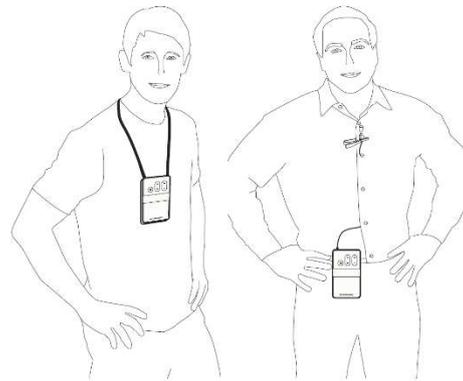
付属のストラップを使用して、ボディパケットランスミッターを首から下げることができます。

安全のために強く引っ張ると外れるようになっています。

ネクストラップの端にあるピンをネクストラップアタッチメント⑦に接続します。

- ・ ベルトクリップ

ベルトクリップを使用して、ボディパケットランスミッターをベルトなどに取り付けることができます。



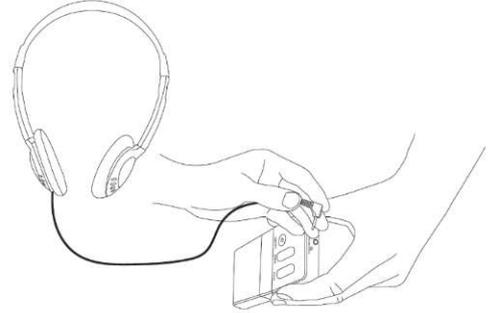
## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### ヘッドフォン/ヘッドセット/インダクションループの接続 **TP** **RP-T** **RP**

ヘッドフォン/ヘッドセット(TP/RP-Tのみ)/インダクションループをコネクタに接続します。

ボリュームボタンで音量を調節します。

※ボリュームは着用後に徐々に上げてください。大音量で長時間のご利用は聴力の低下を招くことがありますのでご注意ください。



### マイクの接続 **TP**

Unite TP は 4 ピンの Mini-XLR コネクタを備えたマイクを接続することができます。

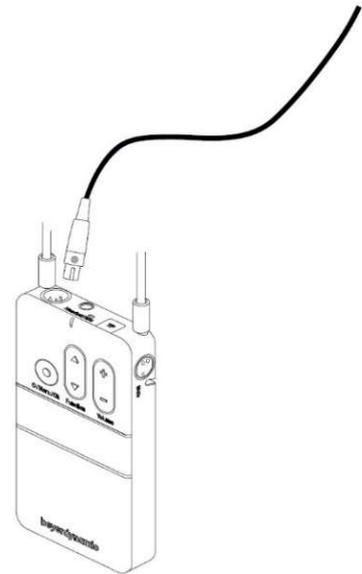
メインメニュー内[Audio]メニュー内の[Microphone]から、MiniXLR マイク、ヘッドセット、内蔵マイク、オートから使用するマイクを選択することができます。

オートに設定をすると、接続されたマイクが自動的に選択されます。

何も接続されていない場合は内蔵マイクが選択されます。

内蔵マイクは、Unite RP-T での短い応答などのトークバック用に開発されました。より良いオーディオ伝送のためには外部マイクまたはヘッドセットの使用を推奨します。

※接続するマイクのピンの割り当てについては、最終頁の[仕様]をご参照ください。

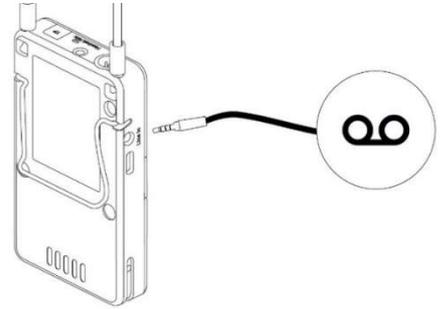


## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### ライン入力 **TP**

Unite TP は 3.5mmTRS コネクタを使用して外部オーディオソースを入力することができます。

メインメニュー内[Audio]メニュー内の[Volume]でライン入力の入力音量を調整することができます。



### 電源のオン/オフ **TP RP-T RP TH**

Unite 機器の電源を入れるには  $\cup$ /Menu/Ok ボタンを短く押します。

電源を切る場合は  $\cup$ /Menu/Ok ボタンを 5 秒間押し続けます。

電源が入ると、ステータスインジケータ LED で機器の状態を確認することができます。

インジケータの表示については、下記の表をご覧ください。

LED	UNITE TP <b>TP</b>	UNITE RP <b>RP</b>	UNITE RP-T <b>RP-T</b>	UNITE TH <b>TH</b>
消灯	電源オフ	電源オフ	電源オフ	電源オフ
○ 橙点滅	起動が完了し通信待機中 範囲外 (スレープモード時)	起動が完了し通信待機中 範囲外	起動が完了し通信待機中 範囲外	起動が完了し通信待機中 範囲外 (スレープモード時)
● 橙点灯	リクエスト待機中	-	リクエスト待機中	リクエスト待機中
● 緑点灯	接続が完了し通信中	接続が完了	接続が完了 トークバック機能が使用可能	接続が完了し通信中
○ 緑点滅	マイクミュート中	-	-	マイクミュート中
○ 赤点滅	バッテリーが10%以下	バッテリーが10%以下	バッテリーが10%以下	バッテリーが10%以下
● 赤点灯	起動中	起動中	起動中	起動中
○ 赤緑点滅	ファームウェア更新中	ファームウェア更新中	ファームウェア更新中	ファームウェア更新中
○ 赤高速点滅	エラー	エラー	エラー	エラー

Unite 機器の電源を入れると、本体ディスプレイにメイン画面が表示されます。

これはデバイスの動作準備が完了し使用できることを意味します。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 画面表示

#### Unite TP の画面表示 TP

- 16. 通話者の表示 (**M**aster、**S**lave 1、**S**lave 2)
- 17. 通話中の話者は反転表示
- 18. 現在の選択しているチャンネル名
- 19. Bluetooth 接続の有無



Bluetooth アクティベート完了



Bluetooth 接続中

- 20. ヘッドセット接続の有無
- 21. マイクのミュート中

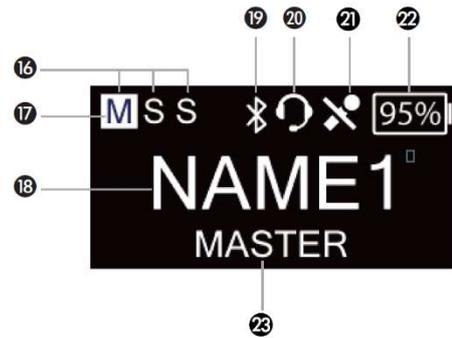


マイクミュート中



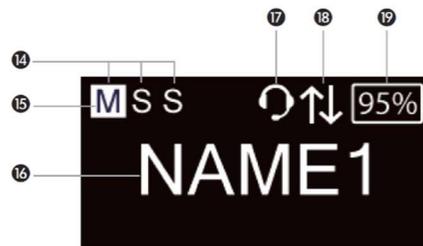
マイクオン

- 22. バッテリー残量
- 23. 現在のデバイスモード



#### Unite RP/RP-T の画面表示 RP-T RP

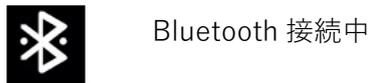
- 14. 通話者の表示 (**M**aster、**S**lave 1、**S**lave 2)
- 15. 通話中の話者は反転表示
- 16. 現在の選択しているチャンネル名
- 17. ヘッドセットの接続(RP-T のみ)
- 18. トークバック中(RP-T のみ)
- 19. バッテリー残量



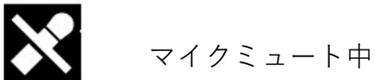
## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

・ Unite TH の画面表示 **TH**

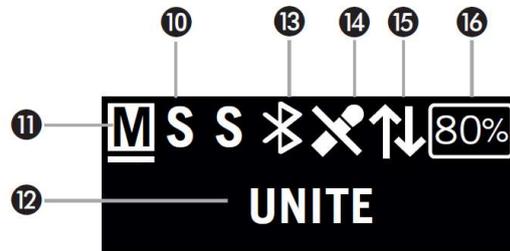
- 10. 通話者の表示 (**M**aster、**S**lave 1、**S**lave 2)
- 11. 通話中の話者は反転表示
- 12. 現在の選択しているチャンネル名
- 13. Bluetooth 接続の有無



- 14. マイクのミュートオン/オフ



- 15. トークバック中
- 16. バッテリー残量



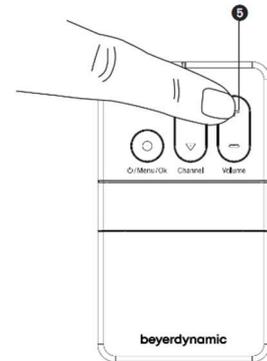
## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 音量調整 **TP** **RP-T** **RP**

ボリュームボタン+/-を使用して、接続されているヘッドフォン/ヘッドセット/インダクションループの音量を調整します。

音量を上げるには、+、音量を下げるには、- を押します。

※耳を保護するために電源を入れる度にボリュームは初期値に戻ります。



### ミュート機能と通話機能 **TP** **RP-T** **TH**

Unite TP/TH 本体のミュートボタンを押すとマイクの送信をミュートします。

[Audio]メニュー内の[Mute Button]で[Push]が選択されている場合は、ミュートボタンを押している間だけマイクがミュートされます。

[Audio]メニュー内の[Mute Button]で[Toggle]が選択されている場合は、ボタンを押すとマイクがミュートされ、ボタンをもう一度押すとミュート解除になります。

※マイク以外のオーディオ信号はミュートされませんのでご注意ください。

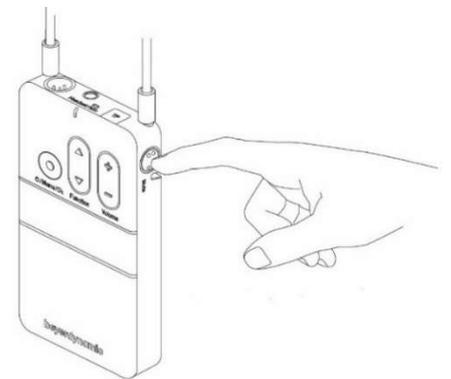
Unite RP-T にはトークバックボタンと内蔵マイクが搭載されています。

[Talkback]メニュー内の[Talkback Button]で[Push]が選択されている場合は、トークバックボタンを押している間だけマイクが送信状態になります。

[Talkback]メニュー内の[Talkback Button]で[Toggle]が選択されている場合は、トークバックボタンを押すとマイクが送信状態になり、ボタンをもう一度押すとミュート状態になります。

※内蔵マイクを使用する際は口元から 10cm 程度離して使用してください。また、内蔵マイクは、Unite RP-T での短い応答などのトークバック用に開発されました。より良いオーディオ伝送のためには外部マイクまたはヘッドセットの使用を強く推奨します。

マイク、マイクモードの選択は第 7 章[メニュー項目]をご参照ください。



## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 8. メニュー項目

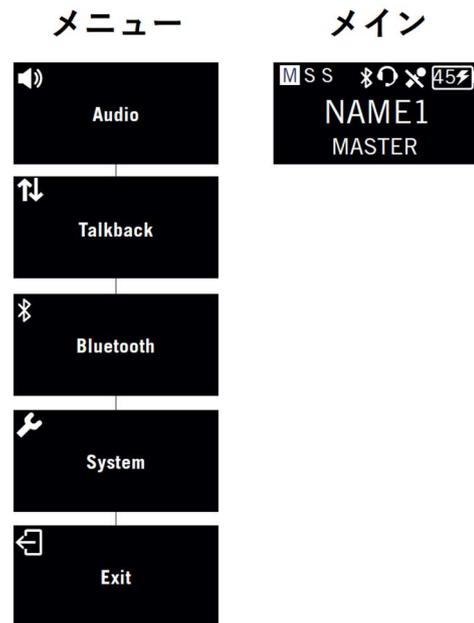
デバイスの電源がオンの状態で $\odot$ /Menu/Ok ボタンを 2 秒間押すとメニューにアクセスできます。もう一度 $\odot$ /Menu/Ok ボタンを押すと、それぞれのメニューにアクセスできます。

メニュー画面では、マルチファンクション（チャンネル）ボタン $\Delta$ / $\nabla$ を使用してメニューをスクロールし $\odot$ /Menu/Ok ボタンで決定します。

機種ごとに表示されるメニューが異なります。

メニュー画面下部には横棒が表示され、選択可能なメニュー数を表示します。

メニュー画面を終了する場合は[Exit]メニューで $\odot$ /Menu/Ok ボタンを押します。また、一定時間操作が行われない場合は自動的にメイン画面に戻ります。



## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### [Audio]メニュー

[Audio]メニューでは音量やマイクを選択など、オーディオの設定を行うことができます。

Audioメニューには[Volume][Microphone][Quality][Mute Button][Line In Aux][Input Effects]の項目があります。

#### Audioメニュー

メニュー名	サブメニュー名	パラメーター	機能	対応機器
Volume	HP Initial Level	25段階	ヘッドフォンの音量調整 ※本体のボリュームボタン+/-で調整される音量とは異なります。 この値は機器を再起動しても値は保持します。	  
	Mini XLR Mic	13段階	MiniXLRマイクの入力ゲイン調整	
	Headset Mic	13段階	3.5mmヘッドセットのマイクゲイン調整	 
	Internal Mic	13段階	内蔵マイクのゲイン調整	  
	Line In	13段階	3.5mmライン入力の入力レベル調整	
	Sidetone	13段階	マイク信号を自身のヘッドフォンへ送信する音量を調整します。	 
Microphone	-	Intenal Mini XLR Headset Auto	使用するマイクを選択します。 Autoを選択した場合、接続したマイクを自動的に選択します。	 
Quality	-	HD SD	マイクの送信モードを切り替えます。 (レイテンシー/周波数特性) HDモード：22.3mS / 50Hz-14kHz SDモード：18.3mS / 200Hz-7kHz	  
Mute Button	-	Push Toggle	マイクのミュート動作モードを切り替えます。 Push：ミュートボタンを押している間のみミュートになります。 Toggle：ミュートボタンを押すことでミュートのON/OFFを切り替えます。	 
Line in/Aux	-	ALL Master Master&Submaster	Line Inに入力された信号を聞く機器を指定します。	

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### インプットエフェクト

Audioメニュー内のInput Effectsメニューではマイクの音響設定を行うことができます。

Input Effectsメニューには[ALC][Low-Cut Filter][Noise Canceller][Ducker]などの項目があります。

Uniteシステムには機器毎にDSPが組み込まれているため、さまざまなエフェクトを設定することができます。

#### Audioメニュー>Input Effects

サブメニュー名	サブメニュー名	パラメーター	機能	対応機器
ALC (Automatic Level Control)	-	Off Low High	マイクゲインを自動的に調整します。 これにより音声の明瞭度が大幅に向上します。 ※ALC機能を使用している場合、マイクゲインは手動で調節できなくなります。 ※ALC機能は内蔵マイクには使用できません。	
Low-Cut Filter	-	Off(50Hz) 80Hz 120Hz 180Hz 250Hz	ローカットフィルターは設定した周波数以下をカットするフィルターです。 一般的にマイクに不要な低周波をカットするために使用します。	
Equalizer	-	Off Female Male	マイクのイコライザーを設定します。 話者が女性の場合は"Female"、 男性の場合は"Male"を選択してください。	
Noise Gate	State	Off On	ノイズゲートのON/OFFを切り替えます。 ※ノイズゲートは一定レベル以下の信号を小さくし、 一般的にマイクを使用していない時のノイズを軽減します。	
	Threshold	13段階 (-48dB~-12dB)	ノイズゲートのスレッシュホールドを設定します。 ※ノイズレベルが低いほどThreshold値は低く設定します。	
Noise Canceller	-	Off Low Mid High	ノイズキャンセラーは空調の様な連続的なノイズに効果を発揮します。ノイズを識別して除去する学習機能があるため、話者の声以外のノイズを除去します。 ノイズのレベルに応じてLow/Mid/Highに設定します。	
Compressor	-	Off Low High Less Pop Noise	コンプレッサーを設定します。 Low/Highはコンプレッションの程度を表します。 ポップノイズを減らすにはLess Pop Noiseを選択します。	
Ducker	-	Off Low Mid High	ダッカーを設定します。 マイク入力があった場合にライン入力/USBからの入力信号が自動的に小さくなります。	

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### [Talkback]メニュー

[Talkback]メニューではトークバックにまつわる設定を行うことができます。  
Talkbackメニューには[Talk Button][Audio Routing]の項目があります。

#### Talkbackメニュー

メニュー名	サブメニュー名	パラメーター	機能	対応機器
TalkButton	-	Push Toggle	RP-Tのトークバック動作モードを切り替えます。 Push：Talkボタンを押している間のみ通話状態になります。 Toggle：Talkボタンを押すことで通話状態のON/OFFを切り替えます。	
State		Off On Request	RP-Tからのトークバックのステータスを選択します。 Off：トークバックを使用しません。 On：トークバックを使用します。 Request：RP-Tのトークバックボタンを押すと、TP/THにリクエストが送信されます。TP/THはリクエストを許諾 (Accept)するか拒否 (Deny)するかを選択できます。	
NOM Talkback		One Channel Two Channels	同時に接続できるトークバックチャンネル数を選択できます。 One Channel：マスター 1Ch、トークバック 1Ch Two Channels：マスター 1Ch、トークバック 2Ch	
Audio Routing	RP Talkback	All Master Master&SubMasters	トークバック信号のルーティングを設定します。 All：すべての機器がトークバック信号を受け取ります。 Master：マスター機器のみがトークバック信号を受け取ります。 Master&Sub-Masters：マスター機器とサブマスター機器のみがトークバック信号を受け取ります。	
	Sub-Master	All Master Master&SubMasters	サブマスター機器からのトークバック信号のルーティングを設定します。 All：すべての機器がトークバック信号を受け取ります。 Master：マスター機器のみがトークバック信号を受け取ります。 Master&Sub-Masters：マスター機器とサブマスター機器のみがトークバック信号を受け取ります。	

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### [Bluetooth]メニュー

[Bluetooth]メニューで Bluetooth の設定を行うことができます。  
Bluetooth メニューでは[State][Connect][Pair]の項目があります。

#### Bluetoothメニュー

メニュー名	パラメーター	機能	対応機器
State	Off Headset Phone/PC	Bluetoothの動作モードを設定します。 Headset：ヘッドセットなどの双方向通信時に使用します。 Phone/PC：音声のプレイバック時などに使用します。	 
Connect	-	ペアリングされたBluetooth機器が表示され、接続/切断を切り替えます。 ペアリング情報は1台のBluetooth機器のみ記憶します。	 
Pair	-	このメニューからBluetoothのペアリングを行います。 Headsetモード：ペアリングを行うと"Searching..."と表示され接続可能なBluetooth機器を検索します。見つかった機器を△/▽ボタンで選択しOkボタンを押し接続します。 Phone/PCモード：ペアリングを行うと"Discoverable"と表示されUNITE TPが検索可能状態になります。接続する機器から"Unite"を選び接続ください。	 

※Headset モードでペアリングを行った際は、ペアリング確立後に Connect メニューより Bluetooth 機器を選択し、接続する必要があります。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### [System]メニュー

[System]メニューではチャンネル名やグループID、画面の輝度などの設定と機器情報の確認を行うことができます。

Systemメニューには[Channel Name][Group ID][Display][Radio Power][Device Mode][Power Lockable][Reset][Information]などの項目があります。

Systemメニュー			機能	対応機器
メニュー名	サブメニュー名	パラメーター		
Channel Name	-	最大5文字	チャンネル名を設定します。 UNITE TPでは送信するチャンネル名を設定します。 RP/RP-Tでは受信するチャンネル名を設定します。	
Group ID	-	1~256	機器のグループIDを設定します。	
Display	Brightness	10段階 (10%~100%)	ディスプレイの明るさを10段階で設定します。	
	Dimming Level	11段階 (Off~100%)	Dimmig Timeで設定した時間後に、ディスプレイの明るさをどれくらいおとすか設定します。	
	Dimming Time	17段階 (Off~240sec)	Dimmig Levelで設定したディスプレイの明るさになるまでの時間を設定します。	
Radio Power	-	Std Mid Low	送信する電波の強度を指定します。 ※この設定は複数の部屋でシステムを使用するときに干渉を防ぐために使用します。	
Device Mode	-	Master Sub-Master	UNITE TPのデバイスモードを変更します。 詳細は「デバイスモード(Master/Sub-Master)」をご参照ください。 ※この設定を変更すると機器は自動的に電源が切れます。使用するにはもう一度電源を入れてください。設定を変更すると起動に時間がかかります。	
Auto switch-off		On Off	マスター機器との接続がない場合に、自動的に電源を切るかどうかを設定します。 この機能をOnにすると接続が途切れてから約15分後にデバイスの電源が切れます。	
Button Lock	Power	On Off	ボタンロック時に各機能のロックを適用するかどうかを選択します。 Power：電源ボタンの長押しで電源を切るかどうかを選択します。 Menu：メニューボタンでメニューにアクセスするかどうかを選択します。 Function：Functionキー長押しでFunctionメニューにアクセスするかどうかを選択します。 Channel：Channelボタンでチャンネルサーチを行うかどうかを選択します。	
	Menu	On Off		
	Function	On Off		
	Channel	On Off		
Reset	-	Factory	Factoryを選択すると機器は工場出荷時にリセットされます。 ※この設定を変更すると機器は自動的に電源が切れます。使用するにはもう一度電源を入れてください。	
Information	Battery	-	バッテリーの情報を表示します。 Charge：バッテリーの残容量 Charging：充電状態 Average Power：平均の消費電力 Temperture：バッテリーの温度 time to full or time to empty：充電完了/残量0までの時間	
	Device	-	機器の情報を表示します。	

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 9. その他の機能

#### ボタンロック **TP** **RP-T** **RP** **TH**

- ・ ベルトパックデバイス **TP** **RP-T** **RP**

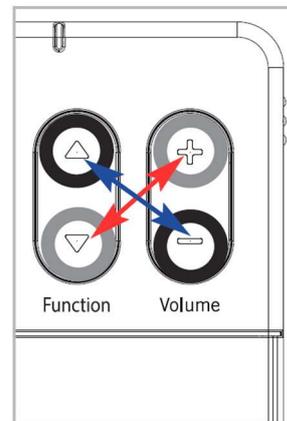
ベルトパックデバイスでボタンロック機能を使用するには、ボリュームボタン+/-のどちらか1つと、マルチファンクション(チャンネル)ボタン△/▽のどちらか1つを同時にたすき掛け方向に3秒間押し続けます。

- ・ ハンドヘルドデバイス **TH**

ハンドヘルドデバイスでボタンロック機能を使用するには、ミュートボタンと、ファンクションボタン両方を同時に3秒間押し続けます。

ボタンロック機能が動作すると、ディスプレイに[Button locked]/[Button unlocked]と表示されます。

ボタンロック機能は電源を落としても設定を保持します。ロックする機能の詳細はメニューから設定します。



#### オートマチックパワーオフ **TP** **RP-T** **RP** **TH**

Unite RP/RP-T と Sub-Master に設定された Unite TP は、15分以上 Master 機器に接続されないと自動的に電源がオフになります。

接続先がない場合はディスプレイ“No RF”と表示されます。

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### 10. 仕様

#### Unite RP/RP-T

DECT RF レンジ	．．．．．	1893-1906MHz
DECT 最大送信出力	．．．．．	最大 250mW (Peak) ※使用する
国		による
DECT 動作範囲	．．．．．	最大 300m(直線距離)
※実際の動作範囲は、RF 出力設定、障害物、電波反射および電波干渉に依存します。		
<u>オーディオ</u>		
低音質 (SD)	．．．．．	200Hz-7kHz(-3dB)
高音質 (HD)	．．．．．	100Hz-14kHz(-3dB)
動作モード	．．．．．	ブロードキャストまたはフルデュプレックス
暗号化	．．．．．	AES-256bit
ヘッドセットコネクタ(RP-T)	．．．	3.5mm4Pin (CTIA)
内蔵マイクロフォン(RP-T)	．．．．	あり
ディスプレイ	．．．．．	高コントラスト モノクロ OLED
最大同時通話数	．．．．．	3 (個別にレベルコントロール可)
バッテリー	．．．．．	リチウムイオンバッテリー
※交換は販売店までご相談ください。		
バッテリー使用状況	．．．．．	OLED ディスプレイに表示
連続動作時間	．．．．．	15 時間以上
サイドトーン/マイクゲイン	．．．．	個別調整可
USB Type C コネクタ	．．．．．	USB2.0、3.0 電力供給 5V/500mA
ネクストラップ	．．．．．	使用可 (着脱式)
サイズ	．．．．．	58 x 102 x 15.5mm
重量	．．．．．	105g
<u>温度</u>		
動作時	．．．．．	-10 ~ +40°C
保管時	．．．．．	-20 ~ +70°C
湿度	．．．．．	0 ~ 90%

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

### Unite TP

DECT RF レンジ	1893-1906MHz
DECT 最大送信出力	最大 250mW (Peak) ※使用する国による
DECT 動作範囲	最大 300m(直線距離)

※実際の動作範囲は、RF 出力設定、障害物、電波反射および電波干渉に依存します。

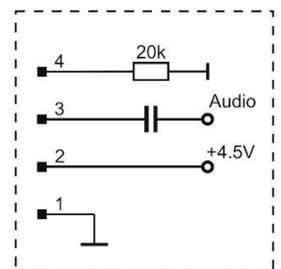
#### オーディオ

低音質 (SD)	200Hz-7kHz(-3dB)
高音質 (HD)	100Hz-14kHz(-3dB)
動作モード	ブロードキャストまたはフルデュプレックス
暗号化	AES-256bit
ヘッドセットコネクタ	4 ピンミニジャック 3.5mm

#### (CTIA)

マイクロフォンコネクタ	4 ピンミニ XLR ジャック (メス) (4.5V バイアス電圧、beyerdynamic TG ピンアサイン)
-------------	--

内蔵マイクロフォン	あり
ラインイン	3.5mmTRS Max -6dBV/0.5V RMS
ディスプレイ	高コントラスト モノクロ OLED



最大同時通話数	3 (個別にレベルコントロール可)
バッテリー	リチウムイオンバッテリー

※交換は販売店までご相談ください。

バッテリー使用状況	OLED ディスプレイに表示
連続動作時間	通常 15 時間以上
サイドトーン/マイクゲイン	個別調整可
Bluetooth	Bluetooth 4.2 (HFP、A2DP)
USB Type C コネクタ	USB2.0、3.0 最大電力供給 5 V/500mA
ネックストラップ	使用可 (着脱式)
サイズ	58 x 102 x 15.5mm

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

重量 . . . . . 105g

### 温度

動作時 . . . . . -10 ~ +40°C  
 保管時 . . . . . -20 ~ +70°C  
 湿度範囲 . . . . . 0 ~ 90%

### Unite TH

DECT RF レンジ . . . . . 1893-1906MHz  
 DECT 最大送信出力 . . . . . 最大 250mW (Peak) ※使用する  
 国 . . . . . による  
 DECT 動作範囲 . . . . . 最大 300m(直線距離)

※実際の動作範囲は、RF 出力設定、障害物、電波反射および電波干渉に依存します。

### オーディオ

低音質 (SD) . . . . . 50Hz-7kHz(-3dB)  
 高音質 (HD) . . . . . 50Hz-14kHz(-3dB)  
 動作モード . . . . . ブロードキャストまたはフルデュプレックス

暗号化 . . . . . AES-256bit  
 ディスプレイ . . . . . 高コントラスト モノクロ OLED  
 最大同時通話数 . . . . . 3  
 サイドトーン/マイクゲイン . . . . . 個別調整可

### マイクカプセル

トランスデューサー . . . . . バックエレクトレット型コンデンサー  
 指向特性 . . . . . カーディオイド  
 周波数特性(HD モード)  
 近距離 . . . . . 40 – 15,000 Hz  
 中距離 (@ 1 m) . . . . . 200 – 15,000 Hz  
 最大 SPL @ 1 kHz . . . . . 120dB SPL

### 本体

Bluetooth . . . . . Bluetooth 4.2 (HFP、A2DP)  
 USB Type C コネクター . . . . . 最大電力供給 5 V/500mA  
 バッテリー . . . . . リチウムイオンバッテリー

## DIGITAL WIRELESS COMMUNICATION SYSTEM

※交換は販売店までご相談ください。

バッテリー使用状況	・・・・・・・・	OLED ディスプレイに表示
連続動作時間	・・・・・・・・	通常 15 時間以上
<u>サイズ</u>		
長さ	・・・・・・・・	258mm
シャフト径	・・・・・・・・	34mm
カプセル径	・・・・・・・・	48mm
重量 (バッテリー含)	・・・・・・・・	225g
<u>温度</u>		
動作時	・・・・・・・・	0 ~ +40°C
保管時	・・・・・・・・	-20 ~+45°C
湿度範囲	・・・・・・・・	0 ~ 90%

### Unite CC-24P

AC インプット	・・・・・・・・	85-264V 47-63Hz
ヒューズ	・・・・・・・・	2x3.15A/SB
公称電流	・・・・・・・・	2A@115VAC/1A@230V
消費電力	・・・・・・・・	150W @24Compartments 225W @36Compartments
最大充電時間	・・・・・・・・	4 時間
コネクター	・・・・・・・・	Ethernet/USB Type-C
周囲温度	・・・・・・・・	-5 ~ +40°C
サイズ	・・・・・・・・	523 x 444 x 171mm
重量	・・・・・・・・	約 10kg
充電ソケット数	・・・・・・・・	最大 24 台

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは株式会社オーディオブレインズまでご連絡ください。お問合せ受付時間は、土日祝日、弊社休業日を除く 10:00～18:00 です。

## 株式会社オーディオブレインズ

〒216-0034

神奈川県川崎市宮前区梶ヶ谷 3-1

電話：044-888-6761

**AUDIO**  **BRAINS**

20190207